



LINKAI 横浜金沢

学生が取材に行く

～企業の取材に行くので、怖い企業だと嫌だなと思ったら、働く人達は気さくで良い人が多く働きがいのある職場だったと気づいた件3～

企画 & 制作: 横浜市金沢区役所区政推進課

取材 & 協力: 関東学院大学 友野和哲研究室、堀田智哉研究室・横浜市立大学 中西正彦ゼミ

2025年3月発行



LINKAI 横浜金沢

学生が

取材に行く

働きがいのある職場

だったと気づいた件

企業の取材に行くので、怖い企業だと嫌だなと思ったら、働く人達は気さくで良い人が多く



関東学院大学
×
横浜市立大学

学生による学生のための
LINKAI 横浜金沢

3

“LINKAI 横浜金沢”とは



LINKAI横浜金沢は、金沢区臨海部の埋立地に造成された大規模産業団地です。
 “LINKAI”には、「臨海」という意味の他に
 LINK(絆／つながり)とAI(愛／合い)の二つの意味を持ち、
 「多くの企業が集まり操業する、働く魅力のある地域に、人が集まり、
 共に将来へ進みたい(つなぎあい、えがくみらい)」という思いが込められています。



LINKAI's Data

(令和3年度 経済センサス調査)

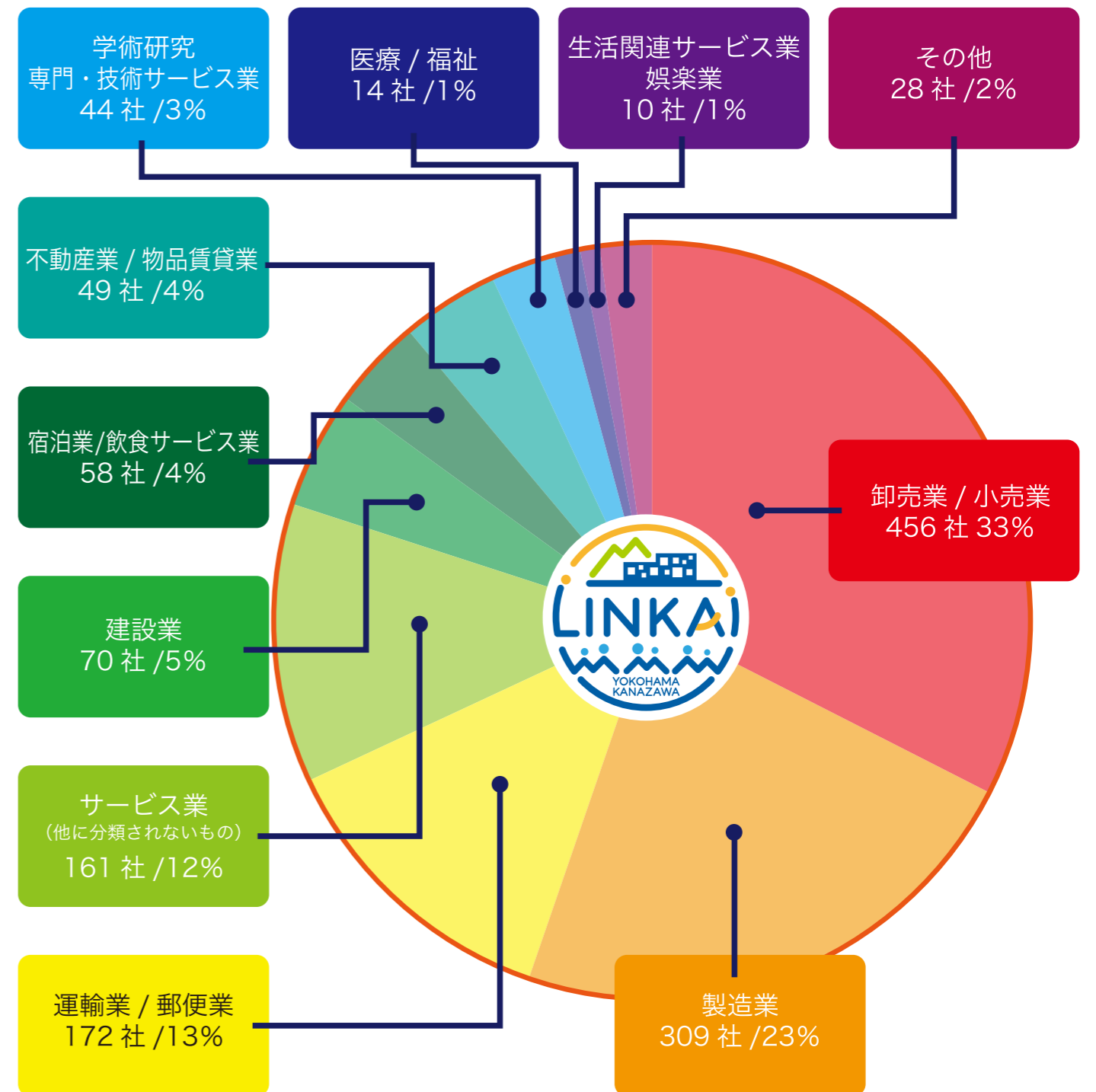
LINKAI横浜金沢の従業員数

35,875人

LINKAI横浜金沢の事業所数

1,371 事業所

産業別分類内訳



※端数処理の都合につき、個々の集計値の合計が100%とはなりません。

金沢区・LINKAI横浜金沢 Area Map



大規模な産業団地

約5.425km²の広大な埋立地は、東京ディズニーランド約11個分の大きさです。

LINKAIへのアクセス

LINKAI横浜金沢を縦断して走る「金沢シーサイドライン」が、働く人々の通勤の足として活用されています。新杉田駅から金沢八景駅までを約25分で結び、車窓からは豊かな海を背景にたくさんの工場を眺めることができます。

また国道357号や首都高速湾岸線が走るなど、道路網も整備され、物流の動脈としても機能しています。

鳥浜工業団地

横浜市の根岸湾埋立事業により造成されました。鳥浜町には、製造業を中心に約400の事業所が集積しています。

金沢産業団地

横浜市の金沢地先埋立事業により造成されました。幸浦・福浦には、様々な業種の約800の事業所が集積しています。

白帆地区

金沢木材港を利用して造成されました。白帆地区にはマリーナ施設や大型商業施設が立地しています。

キャンパスタウン金沢

金沢区にある関東学院大学には約8,000人、横浜市立大学には約5,200人の学生が通学しています。

2つの総合大学があるという金沢区ならではの強みを生かし、大学と区が連携することで、両大学の知識や施設だけでなく、大学生の発想力や行動力を生かし活力ある個性豊かなまち「キャンパスタウン金沢」を目指しています。

関東学院大学

神奈川県内に3つのキャンパスを構える関東学院大学は、11学部14学科9コースに加え、5研究科を擁する総合大学です。自治体や地域、企業と連携して社会課題の解決に取り組む「社会連携教育」を通じた実践的な学びに取り組んでいます。

横浜市立大学

市内に5つのキャンパスを構える横浜市立大学は、「横浜から世界へ羽ばたく」人材育成と、「知の拠点」として世界水準の研究を進め、社会連携を促進するとともに、県内唯一の公立大学医学部・附属病院として、最先端の医学研究に取り組み、地域医療を支えます。



働く魅力ある、 人が集まる産業団地を目指して

「学生による学生のためのLINKAI横浜金沢」

LINKAI横浜金沢にはたくさんの魅力があふれています。ですが、この魅力があまり知られておらず、若手人材の確保が課題となっています。

産業団地といってもそれぞれの企業がどういった製品をつくり、サービスを提供し、どのように社会に貢献しているのか。そこが見えてこなければ「働く魅力ある、人が集まる産業団地」を実現することは難しいでしょう。

LINKAI横浜金沢を認識し、知ってもらうために、金沢区の大学に通う学生が企業を取材し、就職を控えた同じ大学に通う学生たちに向けて、魅力を発信していきます。



今作は第3弾です。第1・2弾は
二次元コードよりご覧いただけます。



学生が 取材に行く

企業の取材に行くので、怖い企業だと嫌だなと思ったら、
働く人達は気さくで良い人が多く

働きがいのある職場

だったと気づいた件 3

目次 CONTENTS

- 01-02 “LINKAI 横浜金沢”とは
- 03-04 金沢区・LINKAI 横浜金沢 Area Map
- 05-06 本誌のテーマ／目次 CONTENTS

- 07-08 株式会社アクアパルス 関東学院大学 友野研究室
- 09-10 株式会社アルファ 関東学院大学 堀田研究室
- 11-12 ESR 株式会社 横浜市立大学 中西ゼミ
- 13-14 株式会社インターアクション 関東学院大学 堀田研究室
- 15-16 株式会社神奈川保健事業社 横浜市立大学 中西ゼミ
- 17-18 武松商事株式会社 横浜市立大学 中西ゼミ
- 19-20 株式会社日本製鋼所 関東学院大学 堀田研究室
- 21-22 富士川建材工業株式会社 横浜市立大学 中西ゼミ
- 23-24 有限会社山田工業所 横浜市立大学 中西ゼミ
- 25-26 株式会社ヨコハマ機工 関東学院大学 友野研究室

- 27-28 学生企画 LINKAI Book Students Project
- 29-30 著作・編集学生一覧 Students List / 編集後記 Editor note



株式会社アクアパルス
〒236-0004
神奈川県横浜市金沢区福浦2-11-7

笑顔あふれる職場づくりと強い絆で支え合うアクアパルス

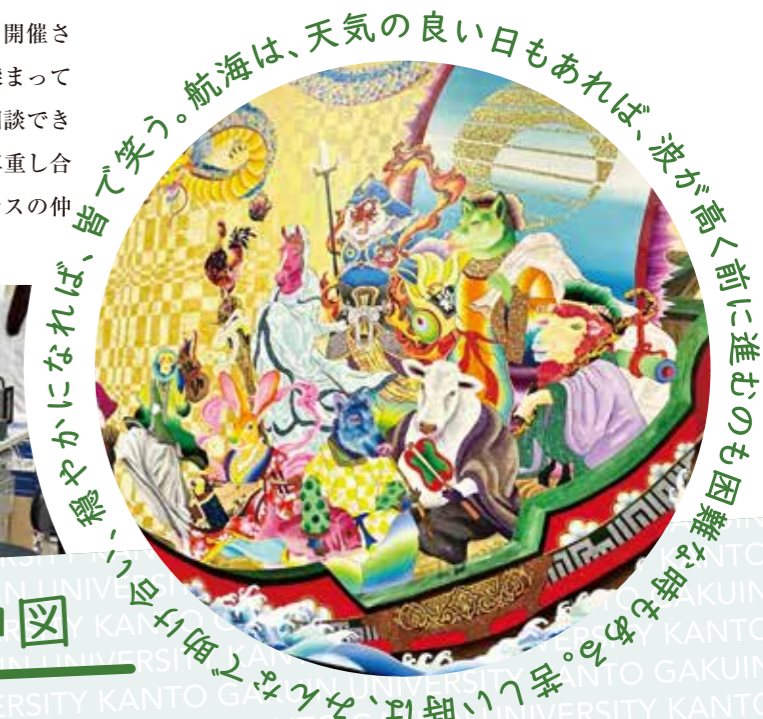
アクアパルスとは？

株式会社アクアパルスは、国や民間からの依頼で、水質・大気・土壌中の物質濃度を測定・分析し、結果を証明する「環境計量証明事業」を行っています。産業廃棄物などの汚染リスクから人々の生活を守り、安全な環境の提供に貢献しています。社名の「アクア(羊水)」と「パルス(鼓動)」には、「社会がいつまでも優しい羊水のようであってほしい」という願いが込められています。また、地域志向CSRとして清掃活動や小学校への子ども新聞の寄贈など、地域貢献活動にも積極的で、2010年から横浜市の「地域貢献企業」に認定されています。信頼性の高い分析と「社員を何よりも大切にする姿勢」が誠実な業務を支えるアクアパルスは、就職を考える際に地域貢献などの付加価値を重視する方にとって魅力的な企業です。

「遊び」にも全力で

社員同士の親睦を深めるためのイベントが盛んに行われており、明るく風通しの良い職場が特徴です。年に一度の社員旅行は、国内外のリゾート地を訪れるだけでなく、社員のご家族も同行可能で、みんなが自由に楽しめる配慮がされています。旅行中の集合写真には全員が笑顔で写り、楽しそうな雰囲気が伝わってきます。

また、社内でのボウリング大会や釣り大会、BBQなどのイベントも開催されており、仕事と遊びのメリハリを持ちながら、チームの絆がさらに深まっています。社長をはじめ、役員や社員との距離も近く、いつでも気軽に相談できる環境が整っており、若い世代の意見も大切にされています。互いを尊重し合い、業務での悩みもすぐに相談し、解決の糸口を見つける「アクアパルスの仲間」のつながりが、信頼感に満ちた職場を支えています。



学生証

一二千支福神図

学籍番号 8758042 (工業化学科)

社名 株式会社 アクアパルス

設立 1991年3月19日

認証 ISO/IEC 17025 認定

Message for Students



増田 健一 社長

関東学院大学のOB社長さんです

「社員を第一に考える企業文化」を大切に、社員同士が助け合いながら進む「船旅」のような職場です。時に波が高く進むのが難しい時もありますが、そんな時こそ互いを支え、穏やかな日には皆で笑い合います。このような風通しの良い環境が、家族のような一体感を生んでいます。学生の皆さんには「努力の大切さ」をお伝えしたいです。目標に向かい努力すれば、新たな道が開けます。アクアパルスはやる気と熱意ある皆さんを歓迎します。

最先端技術で支える確かな環境分析

最新の分析装置と高い技術力で環境物質を正確に測定・分析しています。ICP-MSやXRD、LCMS/MSといった先端機器が揃う分析室は、厳重な品質管理が徹底され、精度の高い分析結果を生み出しています。特定計量証明事業「ダイオキシン類」認定は、全国でも限られた企業のみが取得できる高度な専門性を証明しています。分析工程から報告書作成まで全て自社完結し、迅速な納品体制を実現しています。信頼性と高品質を提供するアクアパルスの姿勢は、社員一人ひとりが誇りを持って支える技術の結晶です。



株式会社アルファ
〒236-0004
神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8

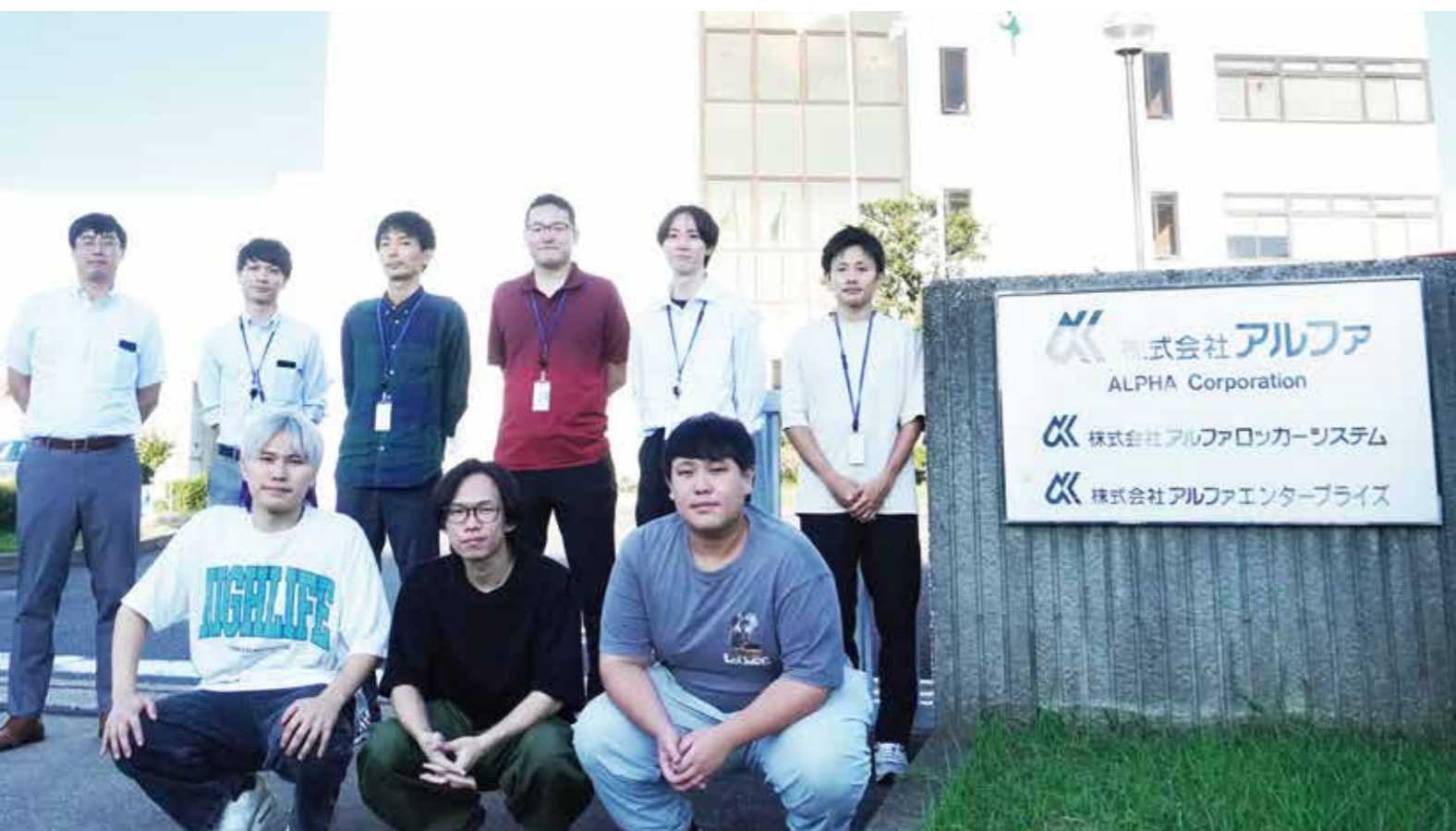
カギの100年企業

私たちが取材した株式会社アルファは、1923年に建築金物とシリンダ錠の製造から始まり、現在では住宅ロックや自動車のドアハンドル、エンジンキー、ステアリングロックのシステムを製造している総合ロック(鍵)メーカーです。

アルファさんは、1923年に誕生し、現在では創業100年目を迎えています。「アルファ」の名前の由来は、ギリシャ語で「最高・一番」を意味するところから名づけられており、総合ロックメーカーとしてNO.1を目指す意味が込められています。

アルファさんの主力製品として、自動車のドアハンドル、エンジンキー、ステアリングロックなどがあります。アルファさんの製品は信頼性が高く、高いシェア率を誇っており、自動車部品は皆さんも知っている大手自動車メーカーから受注しています。ほかにも、アルファさんの製品は私たちの身近なところにたくさんあります。たとえば、駅のコインロッカーや、最近になって需要が高まった宅配ボックスなどがあります。さらに、国内における新築住宅向け電気錠やロッカーなどは、6割以上がアルファさんの製品です。とくにスマートロックや南京錠など多彩なロック製品で知られ、品質と安全性を重視した製品が強みです。

アルファさんは国内に3つの拠点があり、本社は金沢シーサイドラインの産業振興センター駅から徒歩5分にあります。アクセスがしやすく働きやすい環境の理由の一つです。また、国外には16の拠点を有しており、グローバルに事業を展開しています。社内を見学した際には、世界各地の時刻の時計が設置されていました。これらの時計はグローバルな環境を象徴するモノだと感じました。さらに、職場にはさまざまな国籍の社員が働いており、各自が持つ異なる文化や価値観があります。国際的な視点を持ったさまざまな意見やアイデアは、会社に新たな風を吹き込み、グローバルな環境を更に実感させてくれます。この企業は、ただの仕事の場ではなく、世界とのつながりを感じることができる場所であると強く感じました。

塚野 哲幸
代表取締役社長執行役員

今回の取材では社員の方々だけでなく、社長の塚野さんとお話をする機会がありました。塚野さんは設計・開発の業務を中心に活躍され、アルファさんでは初めてエンジニア職から社長に就任されたそうです。

同じエンジニアを目指している私たちに必要なモノを伺うと、「VSOP」というワードで教えていただきました。この意味は、4つの言葉の頭文字でした。20代では、元気で何にでも取り組む「バイタリティ (Vitality)」だとおっしゃいました。さらに、30代では、特定の技術を専門的に学び、人に教えられるほどにする「スペシャリティ (Specialty)」、40代では、競合他社に負けない独自性を生み出す「オリジナリティ (Originality)」、50代では、人間性を大事にする「パーソナリティ (Personality)」が必要だとおっしゃいました。

また、学生の間にしておくべきことは、1つのことを極め、突き出した能力を磨く時間だと教えていただきました。成績がオール3の人よりも成績に5のある人がいいとお話しされて驚きました。塚野さん自身も美術の成績が5であり、その能力が設計をやっていたころに役に立っていたそうです。他の社員の方々からも、たとえば、スポーツで体を動かすことや友人とのつながりを大切にすること、社会人になったらできない髪を染めることなど様々なご意見をいただきました。悔いのないように今しかできないことを大切にしてほしいとのことでした。

「会社を漢字1文字で表すと何か」とお聞きすると、一人の若手社員の方が我先に「鍵」と完璧な回答をされました。その際の明るく楽しい雰囲気がとても印象的でした。他部署とのコミュニケーションや打ち合わせがスムーズで、連携力があることがその場で感じ取ることができました。

アルファさんの自慢できることを伺うと、金沢シーサイドラインの産業振興センターの駅名に「(アルファ本社前)」と付くくらい駅近で通勤しやすいことだそうです。日の目を浴びる機会の少ないニッチな業界であるにもかかわらず、「暮らしのそばにいつもアルファ」を合言葉に、カギという日頃から当たり前のよう使用する道具の製造技術を積み上げることで創業100年を迎えることができました。そして今後もカギはなくなることなく、安定した企業であることが強みとお話いただきました。

今回の取材で、アルファさんは100年間で培った技術やノウハウを用いてものづくりをしている企業だということが分かりました。技術が発展することで電子ロックに置き換わり、形あるカギ(鍵)はなくなります。しかし、防犯上のキーロックとしての概念はなくなりません。

アルファは、100年間で培った技術と知識を用いて、変化していくユーザーのニーズに応えていくことができる企業だと取材を通して分かりました。

ESR株式会社
〒236-0003
神奈川県横浜市金沢区幸浦1-8-1
(横浜幸浦ディストリビューションセンター)

世界の物流を支える不動産 アセットマネジメント会社

物流施設やデータセンターの開発・運営を行っている不動産アセットマネジメント会社「ESR」取材してきました！施設や事業内容に加えて、近年の環境問題対策の高まりや物流業界の人材不足といった課題に対する取組みも伺いました。

ESR株式会社は、2006年に設立された不動産アセットマネジメント会社です。本社は香港にあり、世界の様々な場所で事業を展開しています。

日本法人のESR株式会社(以下、ESR)は、「HUMAN CENTRIC DESIGN.」を基本理念としています。従業員数は70名程と多くありません。事業はテナントや投資家がお客であるBtoBで、他企業に対して物流施設を貸し出しています。皆様もよく知る総合オンラインストアや家具・インテリアを取扱う大手企業もテナントであり、BtoCを主な事業としている企業がESRの施設を借りることが多い傾向にあります。ESRの物流施設で働いている人の99%がテナントの従業員です。

一般的に物流拠点は港湾エリアや森林地域に多いと言いますが、私たちが訪問した横浜幸浦ディストリビューションセンターは、金沢シーサイドライン並木北駅から徒歩10分と立地が良いことが特徴です。都心まで車で1時間かからないこともあり、このセンターがカバーする範囲は1都3県に及びます。現在は二棟を運営しており、三棟目を建設中です。一棟あたり延べ床面積で東京ドーム6個分(16万㎡以上)と広大です。



「自由」でユニークな職場環境

ESRの職場環境における最大の魅力は「自由」です。社員は日々のスケジュールや働き方に大きな裁量を与えられており、決まったルーティンに縛られることなく、柔軟に業務に取り組むことができます。さらに、週末の休みに加えて有給休暇も十分に確保されているため、ワークライフバランスが充実している点も特筆すべき点です。社員同士の仲も非常に良く、業務中には活発なコミュニケーションが図られ、働きやすい雰囲気が醸成されているそうです。

また、施設も非常に魅力的です。エントランスにはアートが展示されているなどこだわったデザインが施されており、建物内部の快適さも際立っています。見晴らしの良い休憩室やランドリー設備に加え、無料で利用可能なジムも完備されており、社員の健康管理にも寄与しています。さらに、今後はロビーにコンビニが設置される予定で、利便性もますます向上する見込みです。17時以降は社内バーでお酒を楽しみながらリラックスできるため、ここで働いている人同士の親睦を深める場としても活用されています。

ESGを用いた社会貢献活動

ESRではESG(環境・社会・ガバナンス)を事業の中核に据えています。これらの事業から持続可能な社会への貢献、長期的な企業価値の向上を追求しています。

環境の面では持続可能な社会をつくるため、SDGs達成に向けた活動を行っています。敷地内、会社の入り口の前には、この地域の埋め立て時に整備された大規模な緑地があり、生物多様性の保護活動と自然の環境保全が行われています。仕事をしながら身近に自然を感じることができる魅力的な場所にもなっていることを感じました。

社会の面では地域社会と関わる活動が行われています。株主、投資家はもちろん、市民とも関わっています。たとえば、私たちのような大学生や地域住民の方々に企業や施設の説明をしたり、横浜市の行政の人たちと地域連携について協議したりしているそうです。また、入り口の隣には保育園が運営されており、通勤のときに合わせて子供を預けることができるなど、子育て世代が働きやすい環境が整えられています。

ガバナンスの面では、最高水準のコーポレートガバナンスを実践することに尽力しています。持続可能な成長と企業価値を向上させるために、適切な情報開示と報告を行うなど誠実性・透明性のある企業になるための制度が制定されています。

地域の、そして世界のESR

ESRでは、環境問題や物流業界での人材不足という社会的課題にも対応するため、ここで紹介したような様々な活動を行っていることがわかりました。職場環境もとても魅力的です。太陽光発電・EV用充電設備の整備などGXへの取組みも積極的に行い、地域との交流も積極的です。また、ESGを事業の中核に据えて活動に取り組むことで、持続可能な社会への貢献と長期的な企業価値の向上を追求しています。これらの取組みは、日本のみならず、アジアを中心とした国々で様々な認証制度の認定や賞を受けています。

取材を通じて、ESRは「持続可能な未来のための空間と投資ソリューションを提供する」を目標に掲げ、人々の快適性と安全性を最優先に考えた施設を創造する企業であることを実感しました。

株式会社インターアクション
〒236-0004
神奈川県横浜市金沢区福浦 1-1

光で未来を創る、 株式会社インターアクション

株式会社インターアクションはイメージセンサ検査用光源装置、瞳モジュール®の開発や製造、販売をおこなっている企業です。私たちが普段当たり前のように利用している携帯電話やスマートフォン、デジタルカメラを陰ながら支えています。この記事では、事業内容や社員さんにインタビューをして分かったことをまとめました。

会社の強み

今回の社員インタビューを通して、インターアクションさんは柔軟性があり、成長志向の強い組織であると感じました。半導体業界では規模が大きい会社が有利と言われている中で、インターアクションさんは事業規模の小さい会社でありながら、大手企業とも取引をおこなっています。また、インターアクションさんはイメージセンサ検査用光源装置の製造において世界でトップのシェアを誇り、最新技術に誰よりも早く携われる環境が整っています。中小企業でありながら大企業と肩を並べることは、社員にとっても大きなやりがいにつながっていると感じました。

「会社を1文字で表すなら」という問いに対して、インターアクションで働く社員さんは「化」を選ばれました。この「化」には、常に変化に適応し、成長し続けるという姿勢が反映さ

れています。この答えを聞いた瞬間、インターアクションさんが大手企業と肩を並べる理由が自然と見えてきました。社員の成長を支えるための教育資金の充実や、「筋さえ通ってれば挑戦は自由」というオープンな文化、部署間の壁がなく社員同士が積極的にコミュニケーションを取る環境など、会社全体に活気が満ちています。とくに印象深かったのは、2021年のコロナ禍での部品不足という危機を、素早く代替品を見つけて乗り越えたエピソードです。まさに「化」の精神が生きた瞬間であり、柔軟かつ迅速に対応する企業の姿勢が、この会社の強さを物語っています。

変化に適応しながらも、社員の自主性を尊重する風通しの良い環境こそが、インターアクションさんを成長へと導く大きな要因であり、まさに「化」が似合う企業だと感じました。



インターアクションさんは、「希望を生み出す社会の光源のような存在になる」ことを目指す、1992年6月25日に設立した創業30年を超える企業です。現在は、神奈川県横浜市金沢区に本社を構えています。事業内容は、スマートフォンや携帯電話に使われているイメージセンサ検査用光源装置、瞳モジュール®の開発や製造、販売です。インターアクションさんの経営理念は、「クライアントファースト」だそうです。「クライアントファースト」とは、クライアントとともに新たな価値を創造できるように、情熱と誠実さを持って仕事に取り組む、勇気を持って挑戦し、常に創意工夫し続けることを意味しています。

インターアクションさんの従業員数は、2024年5月末時点で128名とそこまで多くはない規模ですが、東証プライム市場に上場している企業で、皆さんもご存知の電子機器を取り扱う有名企業と取引をおこなっています。今回の取材を通して、インターアクションさんは、クライアントのことを第一に考え、クライアントにあったサービスや商品を提供していることが分かりました。また、社内の雰囲気は明るく、職位や職種などを気にせず、話し合っている場面も見受けられ、働きやすい、素晴らしい社内環境であると感じました。

学生時代にやるべきこと

柔軟性と成長し続けることを重視する企業で活躍するために学生時代に取り組むことは、調べる力を養うことと、人間関係を大切にすることだそうです。調べる力は自ら情報を収集し、分析するスキルを高めるものであり、社会に出た後も非常に役立つことを教えていただきました。新しい課題や問題に直面した際、自分で解決策を探る力は、仕事の効率や成果を大きく向上させます。また、人間関係を築くことも重要です。友人のみならず、異なる趣味を持つ人との交流を通じて、視野が広がり、柔軟な考え方が身に付きます。これにより、仕事へのモチベーションも高まり、より充実した生活

が送れるようになります。仕事とプライベートのバランスをとるためにも、調べる力と人間関係を重視する姿勢は学生時代から培っていくことが大切だと知りました。

今回の取材を通して、株式会社インターアクションはクライアントファーストを掲げ、イメージセンサ検査用光源装置、瞳モジュール®の開発や製造、販売をおこなっていることが分かりました。柔軟な働き方やコミュニケーションを大切に、常に挑戦し続ける強い姿勢をもった企業だと感じました。

株式会社神奈川保健事業社
〒236-0002
神奈川県横浜市金沢区鳥浜町4-18

人間の為の企業 多岐に渡って良好な衛生状態を築く

神奈川保健事業社は、老朽化した給水管の改修工事を始めとして、ビルの施設管理、清掃、廃棄物処理など多岐にわたる事業を行っている会社です。私達の健康的な生活に大きく貢献しています。今回は事業と社内環境に関するインタビューに加えて、実際に給水管工事の裏側と貯水槽を見学させていただきました。



株式会社神奈川保健事業社は1956(昭和31)年7月に設立され、浄化槽・飲料水の衛生保全業務から発展した、歴史ある会社です。顧客となる建物に対して、水回りを主体とした給排水設備の工事、施設管理や清掃といった衛生的な空間の整備から、発生した廃棄物の収集・運搬・処理に至るまで、これら全てを連携して衛生環境をサポートしています。また、グリーン電力活動や、地域の小学生に向けた廃棄物処理に関する見学説明会、ゴミ回収ボランティアの実施など、社会貢献活動に力を入れている点も特徴的です。快適な生活環境の維持から地域経済の発展を担っており、今や人々の暮らしに欠かせない存在となっています。



緑の下の力持ち 私達の健康を支えてくれる神奈川随一の オールマイティ企業

神奈川保健事業社には建物のメンテナンスにかかる工事部門、管理部門(施設管理・清掃)、廃棄物部門があり、他社では単独でやるような事業を一貫して受け持っている企業です。

たとえば、普段の生活の中で見かける道路工事でも、道路の舗装をしているだけではなく給水管や排水管設備が整備されていることがあります。こういった設備は定期的な清掃などの管理が必要です。また、学校や集合住宅など一度にたくさんの水を使う施設や建物では、大きな貯水槽に大量の水を貯めてから必要な場所へ水を送る仕組みとなっています。貯水槽は法律上年に一回清掃しなければならず、神奈川保健事業社ではそのような清掃業務を担っています。また、建築設備の点検や、事業活動に伴って生じた廃棄物を処理するなど、身の回りの衛生に関わる重要な仕事全般を事業とされています。

水は生きていく上で必要不可欠なものです。綺麗な水を使えるということは当たり前ではなく、神奈川保健事業社のような会社が、常に衛生的な空間や設備を維持し続けてくれることで、衛生で安全な水の供給が保たれます。社員の方は、お客様が感謝を伝えてくれる事がやりがいのひとつだとおっしゃっていました。私達の健康な生活を陰ながらしっかり支えてくれているという点で、緑の下の力持ちの企業です。

社員の成長を積極的に後押しし、 社会を支えるインフラ構築に貢献

「我が社は人間の為の企業、個人の生活を大切に、人類社会の為に働こう」という社是を掲げる神奈川保健事業社は、社員一人ひとりの成長と働きがいを大切にしています。経験豊富なベテラン社員が若手を指導しながら、彼らが着実にスキルアップできる環境を整えています。取材に応じてくれた工事部門の社員の方は、元々文系のバックグラウンドだそうですが、入社後に会社からの支援を受けて必要なスキルや資格を取得したそうです。会社が社員のスキル習得や資格取得を積極的に支援してくれることで、成長の機会が提供されています。さらに教育制度の一環として海外研修があり、そこで多角的な視野を養いタフな働き方を学び、そこで得た知識や経験が社内で実践され会社全体の成長に繋がっているそうです。

社員の方は「目に見えないけれども社会にとって欠かせないインフラを支えるやりがいのある仕事」と語っており、この企業で働くことに誇りを持っている様子が強く伺えました。会社全体が社会貢献に積極的であり、社員一人ひとりがその一端を担いながら共に成長していける企業です。



今回の取材で、改めて綺麗な水を使うことができる幸せを感じました。海外では水の確保に苦勞している国も多い中で、日本は上水道と下水道の両方が整っている点でとても恵まれた国です。しかし整っているだけでなく日頃の清掃や点検が無ければ、毎日新鮮な水を使う事ができません。神奈川保健事業社の事業の大切さを実感しました。



Interview with 武松商事株式会社

by: 横浜市立大学 中西ゼミ
須田逸仁、増村夏帆、大崎隼輝、池田春佳



武松商事株式会社
〒236-0002
神奈川県横浜市金沢区鳥浜町16-5
(エコクルファクトリー)

廃棄物から生まれる新たな価値、 社会を支える縁の下の力持ち

「いい循環が生まれる、その真ん中に」を掲げる武松商事株式会社は、廃棄物の収集運搬から中間処理・リサイクル事業、リユース事業、さらにはアップサイクル工房まで、多岐にわたる事業を展開しています。この記事では、社会の持続可能な未来を目指し日々奮闘する武松商事株式会社の姿に迫ります。

武松商事株式会社(以下、武松商事)は、1976年に設立された会社であり、資源回収を通してお客様のニーズに合わせた分別回収を行っています。本社は横浜市中区山下町にあり、横浜生まれ横浜育ちの企業として地域社会の発展に貢献しています。横浜市の清掃・美化活動や環境保護啓発活動、各種スポーツの支援活動を行っています。従業員数は会社全体で224名です(取材時)。

武松商事は、「顧客満足こそ我々の満足」と「自己への挑戦」を経営理念としています。また、「環境との調和を最重要課題の一つとしてとらえ、循環型社会形成に貢献するための技術研究および商品開発に努める、環境への優しさを優先して環境保全活動を推進」を環境理念として掲げています。

主な事業では、専用の分別ごみ袋と地域ごとに専属のドライバーを配置したエリア制の導入により、廃棄物の計画的な回収と運搬を実施しています。また、各施設を見ると、新磯子ではリサイクル工場、鳥浜では古紙リサイクル工場を設けており、部門に分かれて回収した資源の処理を進めています。さらに、エコクルファクトリーという、家庭から出る不用品を買取りし、リユース品やアップサイクル品として社会に再流通させる、独自のリユースフローを行っており、様々な環境啓発活動にも協力しています。

このように武松商事は横浜の地域密着型企業として各種事業に取り組んでいます。

アップサイクルをより身近に、ワクワクをそばに

武松商事は、買取りした不要物に新たな価値を与えて再生利用する「アップサイクル」という手法を市民により身近に楽しんでもらうために、「くり工房」を運営しています。ここでは、まだまだ使用できる家庭の不用品を、リユース素材として手ごろな価格で販売しています。さらに、本来であれば捨てるはずの品を、新たなデザインやアイデアによってアクセサリやインテリアなどに生まれ変わらせています。工房内では定期的にワークショップを開催し、地域の子供からお年寄りまで幅広い世代にアップサイクルの魅力を発信しています。工房の中には、かわいい小物入れやまだ使うことができる手芸用品がたくさん並んでおり、ワクワクするとともにアップサイクルが持つ可能性を感じました。

縁の下の力持ちの誇りとやりがい

続いて、誇りに思う点について伺いました。一つ目は、「陰ながら支えていること」だそうです。取材前はごみを回収してくれている人について考える機会は多くはありませんでしたが、取材後意識してみると、大学のキャンパスから武松商事の回収車が出てくるのを見かけ、まさに身近なところで私たちの生活が支えられているのだと実感しました。二つ目に横浜市内で「なんでもできる」ことです。金沢区だけではなく泉区や磯子区にも拠点があり、循環型社会の実現に取り組む武松商事ならではの強みです。

求められる人物像

武松商事で廃棄物の収集業務に携わる社員さんのお話では、早朝や夜間の作業で生活リズムが乱れることもあるなど大変なことも多いそうですが、がんばった分だけきちんと評価してもらえるとのことでした。年齢は関係なく、どんな人にも昇任のチャンスはあるそうで、やる気のある人は誰でもこの企業で活躍できます。また、職場の雰囲気も明るく、休憩時にはよく談笑をしており、日頃から親交が深まっているそうです。はじめは工場勤務と聞いて上下関係が厳しいと思っていた社員さんも、会話を重ねていくうちに一緒に働く仲間のやさしさに気づいたといいます。

学生のうちにやっておくべきこと

学生時代には遊びと勉強の両立が大事だとのこと。勉強はもちろんですが、学生のうちにしか経験できないことをやっておくことを特に大切にしてほしいと話してくれました。それに加え、様々な業種の働いている方の姿を実際に見ておくことも、職場の雰囲気などを知る上で大切なことだとおっしゃっていました。

取材を通して、社員の方々が自分自身の仕事に誇りと責任を持っている様子が印象的でした。特に、「影ながら社会を支えることを誇りに思う」という言葉が心に残りました。多様な事業と確かな誇りが武松商事さんの原動力だと気付いた取材となりました。



株式会社日本製鋼所
〒236-0004
神奈川県横浜市金沢区福浦2-2-1
(横浜製作所)

素材とメカトロニクスの総合企業

私たちは、株式会社日本製鋼所取材しました。日本製鋼所さんは、1907年に設立された企業で、戦艦大和の主砲の砲身の製造に携わるなど長い歴史がある企業です。

私たちが取材した横浜製作所では、液晶パネルや有機ELパネルの製作をおこなっていました。現場では、従業員の方の、真剣な姿が印象的でした。従業員の方々はとても優しく、質問にも丁寧に答えていただきました。

日本製鋼所(Japan Steel Works)は、1907年に設立され、製鋼業を中心とした日本の重工業メーカーです。主に大型鋼鍛造品やプラスチック樹脂製造・加工機械、精密加工機械などを製造しています。とくに、原子力発電所向けの圧力容器や風力発電用の大型部品など、エネルギー分野での需要が高い製品を手掛けることで知られています。また、大型の鍛造品において世界トップクラスの技術力を持っている強みがあります。さらに、射出成形機や押出機など、プラスチック加工機械の分野でも世界有数のメーカーとして知られています。さまざまな分野で世界的に高い技術力を誇り、核融合炉の部品や航空宇宙産業向けの高強度材料の開発など、先進的な分野にも積極的に取り組んでいます。

日本国内外に生産拠点があり、グローバルな事業展開をおこないながら、環境に配慮した製品づくりにも注力しています。持続可能な社会に貢献するため、技術革新を通じて新たなソリューションを提供する企業として成長を続けています。

さらに近年では、さまざまな目線での意見を取り入れるため、外国の方や女性の社員を増やそうと積極的に活動しています。



日本製鋼所さんは、同じ業界の中でもとくに事業の幅が広く、活躍の場が多いことが魅力でした。設立当初は兵器の製造を専門としていたため、一般向けの製品を製造する業界に移行する過程がとても大変であったと聞きました。このようにたくさんの分野で活躍できる企業に成長したのは、従業員一人ひとりが堅実に、高い意識をもって仕事に取り組んできたからなのだと思います。

従業員の方から、「最初は指示された仕事を何も考えずにおこなうだけだったが、経験を重ねることで工夫し広い視野で効率よく仕事をおこなえるようになった」と聞き、社会人として大切な、「考えて行動すること」を育ててくれる企業だと感じました。従業員の間での交流はとても盛んであり、クリスマスパーティーやビンゴ大会などの催しも開催されているそうです。従業員の間での交流が盛んであることが、仕事の際もスムーズなコミュニケーションに繋がっていると思いました。「活躍したい、働くことを通じて成長したい、人間関係を大切にしたい」という人にとってもおすすめしたい企業です。

大学生のうちにやっておいたほうが良いことは、アルバイトだそうです。アルバイトは、学生にとって社会人と会話し、コミュニケーション能力を養うことができる場所だからだそうです。さらに、指示されたことだけでなく、自分で考えて行動することを心がけることで、今後社会人になるための練習になります。

座右の銘を聞いたとき、ある従業員の方が「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる。」だとおっしゃっていました。これは、普段の学校生活でも意識することができると思いました。また、学生のうちに、さまざまなことを経験したほうが良いと話してくれました。社会人になってからではできない経験のなかには、幅広い視野や感性を成長させてくれる経験が多くあります。時間がたくさんある学生のうちにさまざまなことに挑戦し、成功や失敗から学ぶことが大切であると感じました。

今回の取材を通して、日本製鋼所さんは卓越した技術を持っていることを知れました。また、外国の方や女性を採用することで、今までにない、新しい視点の意見を取り入れています。改良と研究を重ね、より良い製品をお客様に提供するという強い思いが伝わってきました。さまざまな産業に進出するための前向きな姿勢が、今までの歴史を作り、これからも歴史を作っていく企業だと感じました。



富士川建材工業株式会社
〒236-0002
神奈川県横浜市金沢区鳥浜町13

「モノづくりから仕事づくりへ」 その時代の需要に応え続ける会社

富士川建材工業株式会社は、製品開発・製造事業、住宅事業、土木事業を行っており、徹底した試験と品質管理を実施し、それらをクリアした建材製品を供給しています。今回の取材では、インタビューと工場見学、そしてモルタル塗り体験や水平加力試験の様子を見せていただきました。

富士川建材工業株式会社(以下、富士川建材工業)は、1957(昭和32)年に横浜市磯子区にて「京壁」や「繊維建材」の製造販売を行う会社として創業しました。現在は軽量セメントモルタルの製造販売が主で、数種類のモルタルを様々なハウスメーカー向けに販売しています。軽量セメントモルタルとは、名前の通り通常のモルタルと比較して軽量であることが特徴で、施工の際の負担が少なく工期の短縮につながります。また、厳しい品質試験を実施しているため確かな品質が担保されており、「ラスモルⅡ」と呼ばれる軽量セメントモルタルは業界内で唯一JIS認証を取得しています。富士川建材工業は、災害等に強く環境に配慮した安全性の高い製品の製造開発を行い、業界全体の発展に大きく寄与している会社です。

オンリーワンを支えるモットーと、 そのために求める人材

富士川建材工業は創業してから長い間、モルタルの開発・製造を中心としてものづくりを行ってきました。オンリーワンがないと中小企業の存続が難しいこの世の中、2,000坪ある工場内で、その時代に必要とされる製品を見事に作り続けています。使い手にとって安全で塗りやすい製品を作ること、災害時に壊れず丈夫なモルタルを作ること、環境に配慮した製品を作ることなどをモットーとしています。

その努力もあり、富士川建材工業のモルタルは日本で唯一JIS(日本産業規格)認証を取得しています。国内シェアは約30%を占めており、数々の大手ハウスメーカーなどと取引を行っています。先述のように製品には特許や認証を取得しているものもありますが、時代に合ったオンリーワンの製品を作ることが特許取得につながっています。

富士川建材工業では製品の品質を確かなものにするために、研究を積み重ね、結果を論文としてアウトプットする力のある人材が求められています。また、社内ではコミュニケーションを大事にしており、社員の皆さんが自分自身で意思を持ち、明るく健康であることを望んでいます。

営業部の今泉さん
生産部の齋藤さん

社員さん2人に聞く、会社のこと、 学生へのメッセージ

今回の取材では、営業部の今泉さんと生産部の齋藤さんにお話を伺いました。取材した中から、仕事のやりがい、会社内で取り組んでみたいこと、学生時代にやっておくべきことの3つを紹介します。

まず、仕事のやりがいについて。今泉さんは、自分の仕事によって富士川建材工業の広報や情報発信、普及につながるころ、齋藤さんは、工程検査の際に今までできなかったことができるようになるというところにやりがいを感じていました。

次に、会社で取り組んでみたいことについて。お二人は部署が違うため、お互いが普段どんな仕事をしているか詳しくは知らないそうです。この取材を通じた話し合いから、他部署の体験などを通して、よりコミュニケーションをとれるようにするのは面白いのではないかと意見が一致していました。

最後に、社会人になって、今思う学生時代にやっておくべきことをお尋ねしました。お二人とも同じ回答で、たくさん遊んだり旅行に行ったりすることと答えられました。社会人になると、まとまって休みを取ることや、友人と予定を合わせる事が難しくなります。学生のうちに、人付き合いを大切に、たくさん遊ぶべきだと話されていたのが印象的です。

今回の取材を通じて、富士川建材工業は時代の変化に対応する柔軟性や徹底した品質管理を大切にしている会社であると感じました。また、実際の製造現場や試験の様子などの案内や説明を丁寧にいただき、貴重な体験となりました。



有限会社山田工業所
〒236-0004
神奈川県横浜市金沢区福浦1-3-29

優れた技術で中華鍋業界を制す



「産業振興センター駅」から徒歩5分、金沢工業団地の一角にある山田工業所。ここでは、横浜中華街の飲食店で高いシェアを誇り、日本中で使われている、多種多様な中華鍋が製造されています。

有限会社山田工業所は1957(昭和32)年創業の65年以上続く会社です。社員は16名おり、1日に300枚ほどの中華鍋を生産しています。戦後、鉄が不足していた時代に、ドラム缶を叩いて鍋をつくったことから事業が始まりました。現在では、長く培ってきた独自の技術で品質の高い中華鍋を生み出しています。山田工業所の中華鍋は、その軽さや丈夫さが毎日鍋を持つ料理人さんに好評で、法人のお客様など約120社と取引しているとのこと。しかも一般的なメーカーで必要とされる「営業」は行わず、口コミや評価の高さで注文が来るそうです。テレビなどのメディアでもこれまでたびたび取り上げられてきました。それほどに山田工業所の中華鍋は確かな品質を誇っています。

また、山田豊明社長のお話を聞き、人をとても大切にしている会社であるということがよく分かりました。社員に定年はなく、高齢の方も元気に働いています。なんと社長の学生時代の同級生の方も働いていらっしゃるそうで、とても長い間「縁」を大切にされているのだと感じました。



山田 豊明 社長



日本で唯一の打ち出し製法、モノづくりへのこだわり

実際に鍋の製造過程を見学しました。山田工業所では、日本で唯一の打ち出し製法を採用しており、創業以来、そのこだわりは変わりません。打ち出し製法とは、1枚の鉄板を特殊なハンマーがついた機械で何回も叩き、鍋の形にしていくものです。打ち出すことによって鉄板を薄く軽くすることができ、そのため熱伝導がよくなり、料理人の負担も減ります。

製造工程は、まず1.2mmの鉄板から鍋の形に切り抜きます。次に切り抜いた鉄板を10枚ほど重ね、専用の打ち出し機械を使って立体的な鍋の形にしていきます。ここでは専用のハンマーが鉄板を叩いていきますが、職人の手が不可欠で、ハンマーの位置を見ながら細かく鉄板の位置や向きを調節しています。打ち出された鍋のへりをプレス機にて起こし、その後別の機械のハンマーを使って波打つ曲面を平らにし、底の部分も叩いて滑らかにします。動き続けるハンマーに対して、タイミングよく鍋を挟み、正確に、素早く形を整えていくその職人技には感動を覚えるほどでした。そして、柄の部分に富士山と「打ち出し」と書かれた刻印を押して、取手を丸め、溶接で柄の部分を補強し、やすりで淵の部分削って滑らかにします。最後に錆止めの薬剤に浸し、乾燥させ、鍋が完成します。各工程で職人の皆さんの技が光り、「打ち出し」の刻印文字はとても誇らしく、できあがった鍋一つ一つにモノづくりへのこだわりを感じ取ることができました。



人を大切に。お金が全てではなく、お互いを救い上げるような関わりを

山田社長のお話の中で、人とのつながりを何より優先する経営方針が特に印象的でした。主にこれまでのつながりで人を雇うことや、定年を設けず、本人がやりたい限り働き続けてもらいながら、新人への教育係も務めてもらう方針などは、現在の社会では珍しいやり方だと感じました。

<社長に伺いました>

学生：学生のうちに必ずやっておくべきことはなんですか？

社長：友達、大切なつながりをつくることです。勉強よりも大切なのは愛情や思いやりなどを学ぶことです。

学生：この会社の中華鍋の「軽量性」と「熱伝導率が優れている」という特徴は、研究した上で得られたものですか？それとも叩いて作ることにこだわってきたからですか？

社長：叩き続けてきた結果です。

「従業員」という言葉の意味を改めて考えさせるような現場も記憶に残ります。優れた技能に加えて、同じ過程で同じことを数万回繰り返しても精巧につくり上げることができる人こそ、職人と言えるのではないのでしょうか。そのような人が生まれる会社如山田工業所です。



金沢区にある身近な工場から、料理人の手へと中華鍋が渡り、横浜中華街の美味しい料理を支えているのだと思うと、とても感慨深い気持ちになりました。最後に社員のみなさんが集まって、一緒に記念撮影をしてくださいました。みなさんの、煤や油で汚れ、ゴツゴツした職人の大きな手と、微笑んでいる優しい顔が印象的でした。



株式会社ヨコハマ機工
〒236-0003
横浜市金沢区幸浦2-15-4

ファスナーを通して モノとモノ、人と人をつなぐ会社



<ヨコハマ機工とは?>

株式会社ヨコハマ機工は、国内外の産業を支える「つなぐ」技術を提供する工業用ファスナー専門商社で、創業57年を誇ります。釘やビス、ボルトを中心に、高品質な締結具を国内へ展開し、特に輸出梱包の分野で高い評価を得ています。同社は「全ての利害関係者の期待に応えられる企業」を目指し、本社を構える「LINKAI横浜金沢」から全国へと事業を展開しています。また、月平均残業5.8時間、昇給率10%(2023年4月実績)と、従業員が安心して働ける職場環境も魅力です。親子出勤制度やチケットレストランなど、働きやすさを追求する制度も導入し、若手社員の「技術や知識の学び」を支援する体制が整っています。就職を考えているすべての皆さんにとって、社会的意義を感じ、未来を拓く場としての魅力が詰まったヨコハマ機工さんを今回取材させていただきました。

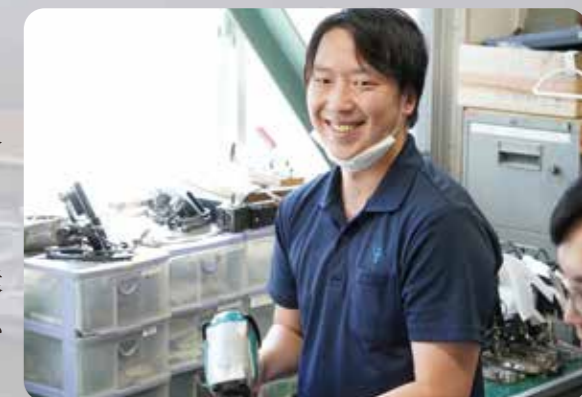


「仕事は愛だ」

この言葉の意味とは？

「相手が何を考え、どうしたら幸せにできるか。」

仕事を通じて、顧客、社員、地域社会との「つながり」を大切に、社員一人ひとりが「つながり」を広め・深めることを目指しています。他者に貢献し、自らの成長も重ねるこの姿勢が、ヨコハマ機工の信頼と実績の基盤となっています。さらに、これを実現するためには、社員が長期的に活躍できる環境が不可欠であり、充実した福利厚生制度を整えています。次に、その中から特に興味深かった4つの制度をご紹介します。



吉岡書店

「学びと共に」社員の学びと成長を支援するために社内図書館「吉岡書店」を設置し、社員が必要とする書籍を会社が購入。ビジネス書から生活に役立つ実用書、さらには子育てに役立つ絵本や漫画など、幅広いジャンルの書籍を取り揃えており、社員が自由に利用可能。社員が自己研鑽を積みながら、業務に役立つ知識を獲得。



チケットレストラン

「美味しいご飯が活力」社員の健康管理にも注力し、毎日の生活を快適にするため、お昼代を会社が半額負担するチケットレストランの導入。

出産手当

「社員の家族を考える」1~2人目 1万円・3人目 50万円・4人目以降 100万円。入社後3年、出産後3年在籍したものに受給資格発生。数年で分割して支給し、上記総額を支給。

親子出勤制度

「パパの友だち、ママの友だち」夏休みなどの長期休みや軽い風邪で保育園に預けられないときなど、親子で出勤ができます。(本社・関西営業所・東海営業所・広島営業所で実施中)



横田社長からのメッセージ

学生・生徒の皆さん！

今だからこそ、新たな世界へ一歩を踏み出し、多様な人と関わることを大切にしてみてください。異なる意見や経験に触れることで視野が広がり、それこそが社会人としてのスタートダッシュに役立ちます。謙虚さと感謝を忘れず、物事を自分ごととして捉える姿勢を養いましょう。当社も人と信頼を築くことを最も大切にしています。多くの経験を通じて、毎日自分を成長させる機会にしてください。



横田 勝
代表取締役社長

①金沢シーサイドライン



産業団地の探索スタート！シーサイドラインに乗って、はいチーズ！新しい発見がきっとあるはず。
旅の始まり # シーサイドラインの中で # 車窓からは工場がたくさん

⑥六方石モニュメント（金沢水際線緑地）



LINKAIの中にこんな迫力のあるモニュメントがあるなんて、皆さん知っていましたか！？
庵ノ浦産六方石 # 新しい発見 # ポーズを決めて

⑦金沢水際線緑地



金沢水際線緑地で釣りタイム！
海辺の散歩道 # 夕焼けがきれい # 釣果は秘密

⑨金沢産業振興センター



地域の一大イベントへ。人もたくさん！賑やかです！
PIA フェスタ 2024 # 秋の操業新年祭 # また来たい場所

⑩幸浦二丁目公園



産業団地を探索していたら、大きな公園を見つけたよ
幸浦二丁目公園 # 産業団地の憩いの場 # 最高の笑顔

②加藤美峰園本舗横浜工場



加藤美峰園本舗の工場直売店では、はちみつを試食もできるんです！
たべくらべ # はちみつ試食会 # 第1弾で取材しました！是非ご覧ください！

⑤文明堂食品工業直売所



文明堂のどら焼きをゲット！
美味しすぎて笑顔が止まらない～
工場直売所 # 3時のおやつ # カステラも買いました

⑧メルヘン金沢産業振興センター店



お腹が空いたからレストラン「メルヘン」へ！
LINKAIグルメ # オムカレー # ごちそうさまでした！

⑪長峰製茶横浜金沢店



産業団地の中にあるお茶屋さんに行ってきましたよ！
長峰製茶 # 創業明治九年 # むせ抹茶ソフト

③梅蘭福浦食品工場直売所



中華菓子と冷凍蒸し餃子を購入して、お店の前でパシャリ！
梅蘭福浦食品工場 # 老舗の本格中華 # 食べるの楽しみ

④南部フーズ工場直売所



南部フーズの直売所に来ました！
煮豆や金沢区野島で採れた生のり佃煮、くるみ小女子をゲット！
金沢ブランド # 金沢区グルメ # お土産ゲット！



⑫横浜ベイサイドマリーナ



カッコいいクルーザーがたくさん！
青い海と空が広がるロケーションが最高です。
日本最大級のマリーナ # 海風が心地いいね # 船舶免許とりたいかも

⑬横浜南部市場



野菜・肉・魚がそろう市場にやってきました。
さて、どこから行こうかな!?
横浜南部市場 # 食の専門店街 # 何でも揃う、何でも安い、横浜の台所

LINKAI Book!!
FUN!FUN!FUN!

シーサイドラインで巡れる、LINKAI 横浜金沢。
景色を眺め、釣りができ、海に癒され、イベントで楽しみ、食の工場も沢山！
友達や家族と巡ってみてはいかがですか？
地元の大学に通う学生が見つけた、お楽しみマップです。

- ①金沢シーサイドライン
- ②加藤美峰園本舗横浜工場
- ③梅蘭福浦食品工場直売所
- ④南部フーズ工場直売所
- ⑤文明堂食品工業直売所
- ⑥六方石モニュメント（金沢水際線緑地）
- ⑦金沢水際線緑地
- ⑧メルヘン金沢産業振興センター店
- ⑨金沢産業振興センター
- ⑩幸浦二丁目公園
- ⑪長峰製茶横浜金沢店
- ⑫横浜ベイサイドマリーナ
- ⑬横浜南部市場



著作・編集学生一覧 Students List

関東学院大学 友野研究室

株式会社アクアパルス
 宇佐 環樹、佐々木 涼、松井 誠実、大川 諒輔、菅原 涼太
 花谷 明信、羽田 歩夢、佐野 隼斗、佐野 諒

株式会社ヨコハマ機工

須田 理華子、山口 莉音、佐々木 涼
 吉野 暖人、小林 百華

関東学院大学 堀田研究室

株式会社アルファ
 石井 寿明、羽原 悠騎、木本 琉稀

株式会社インターアクション
 松永 大牙、中島 寛太、松本 倫太郎

株式会社日本製鋼所
 笹生 龍平、齊藤 玲仁、齋藤 神威

横浜市立大学 中西ゼミ

ESR株式会社
 早川 可奈子、矢萩 日菜、川口 典親、稻福 そら

株式会社神奈川保健事業社
 池原 興典、中村 恵杜、田野 真礼、中川 菜摘

武松商事株式会社
 大崎 隼輝、池田 春佳、須田 逸仁、増村 夏帆

富士川建材工業株式会社
 國分 咲良、隅 風渡、岡谷 ひめの、樽沼 大地

有限会社山田工業所
 キム キョンユン、平沼 凜、前田 正信、保井 三奈

編集後記 Editor note

LINKAI横浜金沢PR冊子「学生が取材に行く」も第3弾の発行となりました。第1・2弾に引き続きご協力いただきました、関東学院大学の友野研究室、堀田研究室と横浜市立大学の中西ゼミの学生の皆さん、先生方、両大学の広報ご担当者様、今回も本当にお疲れ様でした。この場を借りて感謝申し上げます。

今弾では総勢42人の学生が実際にLINKAI横浜金沢の企業を訪問して取材を行いました。また初の試みとなる「学生編集長会議」を組織して、学生が主体となり企画を考え、実施した「LINKAI Book」を掲載しています。LINKAI横浜金沢の中には、働く場所としての魅力はもちろん、食べる魅力や憩う魅力など、皆さんの知らない魅力が詰まっています。各企業の取材ページの他、学生企画も見どころとなっていますので、是非ご覧ください。

そして、今回取材をさせていただきました全10社の企業の皆様、学生を温かく迎え入れていただきありがとうございました。慣れない取材に戸惑う学生の緊張をほぐすように、「大学ではどういうことを勉強している?」、「みんなは将来どんな仕事をしたい?」と企業の皆様から率先して声をかけていただき、終始和やかな雰囲気で行うことができました。実はその裏で企業の皆様もとても緊張していたと、後から知りましたが、全くそのような素振りを感じさせない、自分の仕事に誇りを持って誠実に応答するカッコいい姿がありました。就職を控えた学生がこの冊子を読んで、少しでもLINKAI横浜金沢を身近に感じ、働きたいと思っていただければ幸いです。

結びにこの企画に関わっていただいたすべての関係者の皆様、至らぬ点多々あったかと思いますが、ご対応くださりありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。